

< 6月 葛飾北斎「赤富士」 >



やさしい K-ART

2025年6月のテーマ《葛飾北斎「赤富士」ワーク》

かづしかほくさい ふぐくさんじゅうあつげい がいふうかいぜい
葛飾北斎『富嶽三十六景 凱風快晴』
通称「赤富士」を描きます。

< テーマを決める >

上野の森美術館で5月27日～7月6日で開催される「五大浮世絵師展」のニュースを見て、何百年も前の日本で描かれた絵（版画）を模写しながら日本文化を学びましょう。

< 問いを考える >

「葛飾北斎ってどんな絵を描いた人でしょうか？」

「富士山は何色をしている？」

「この雲は何雲でしょうか？」「季節はいつ頃だろう？」

「富士山の上の白い部分は何かな？」

「なぜ赤富士が赤いの？」「この絵の富士山の時間は何時くらいかな？」

「浮世絵ってなに？」

葛飾北斎が赤富士を描いた背景などお話をして、作品の奥にある状況や思いなどを感じながら富士山を描きましょう。

1. フレーム
2. キットパス
3. ベビーパウダー
4. 黒画用紙2枚
(予めA4サイズに切っておく)
5. 赤富士見本
6. えんぴつ
7. ハサミ
8. 固形糊



< 環境をデザインする >

「絵の要素をパーツ分けした材料に色付けをしていく」

三原色で学んだお米で作られたキットパスを使って、葛飾北斎が描いた「赤富士」の模写をしていきます。絵はフォルムが上手く描けないと途端に他の子たちと比べて上手・下手という比較をしてしまいます。

きちんとそのフォルムが出せるようにパーツ化をしているので、子どもたちの想像を超える作品になるような材料作りをしています。



< 探究活動を実践し、記録する >

6/3 (4歳児)

前回の三原色は「塗る」ということがメインでしたが、今回は「塗る」だけでなく白い雪の部分「描く」ということも加わってきました。「描く」ということは意外と難しいものなので、先生のお話をよく聞いてその通りに描く子、自分のイメージの通りに描く子など、個性が作品に現れます。見本と同じように書いていなくても、見本の上に自分の作品を重ねるとなんとなく本物のように見えてくるのがK-ARTマジックです。みんな自分の作品を重ねた時に、「わぁ」という顔をしていたのが印象的でした。



< 探究活動を実践し、記録する >

6/3 (5歳児)

5歳児さんになると「むずかしそう」「できない」という感覚も生まれてくるようで、見本を見た時には描けないと思っていたとしても、作品を完成させると高い達成感が得られます。先生のお話をもとに、すぐに実践もできる子が多く、進むスピードも早いのが5歳児さんのクラスですね。キットパスは水洗いで落とせることを覚えていて安心して汚す子は早い段階から顔にキットパスを塗り出しました(笑)そういうことをしながらも、だんだん工程が進んで最後に自分が作った赤富士のパーツを見本に重ねたときは、何か感じるものがあったのか、ちょっと驚いたような、うれしいような表情をしていたのが印象的でした。



< 探究活動を実践し、記録する >

6/24 (4歳児)

4歳児さんクラスの子たちも空の側面塗りは覚えてくれていたようです。空はサラッと塗り上げた後の雲はみんな少し難しそうではありましたが、きちんと見本を見る子もいれば、自由に塗る子もいましたが、みんな個性爆発でした。フレームに入れてジャジャーンと見せてあげると、すごくニコッとしてくれた顔がとっても素敵でした。とても素敵な赤富士が完成しました。

「赤富士を書いた人のお名前なんだっけ」と聞くと、「おやさい?…はくさい!」「ちがうよ、ほくさいだよ!」と難しい葛飾北斎の名前も覚えられたようでした。



< 探究活動を実践し、記録する >

6/24 (5歳児)

今回は、年長クラスからのスタートでしたが、空をキットパスの側面塗りをすることは「簡単だよ!」という感じでサッとみんな色塗りをした後、雲を描くところはゆっくりと時間をかけて描く子とさっと描く子、見本をよく見る子・・・など、いろいろと個性が出てみんなオリジナルの赤富士が完成しました。

K-ARTマジックで、いろいろな雲ではありますがフレームに入れて素敵な赤富士の作品を見たときの笑顔が「自己肯定感が高まった」瞬間を表していたと思います。本物の葛飾北斎の赤富士を見て、また何か感じてくれるといいなと思いました。